

生活科学研究所学習グループ活動記録（1996年）

地域社会の人々を対象とした学習グループ活動は1989年に発足し今年度で第8期である。

前年度に引き続き泉グループ（参加人数15名）、蒲生グループ（参加人数6名）の2つの学習グループがそれぞれに活動を行っている。

時代の変化に対応した生涯学習の場として今後さらによりよいものに発展させていきたいと考えている。

本年度の両グループの具体的な活動内容は以下の通りである。

泉グループ活動報告

担 当：泉 敬子（文教大学教育学部名誉教授）

補 助：佐藤ひろみ・多田圭子

メンバー：15名

本年度は前期は第3火曜日、後期は第4月曜日に講座を開いている。

第1回（4月）

「調理について その1」

おいしさの科学の概要についてレクチャーを行なった。

第2回（5月）

「調理について その2」

おいしさの意義・おいしさと感覚・味の特性・科学的要因としての味・おいしさの要因としての香りなど“おいしさの科学”について具体的に学んだ。

第3回（6月）

「調理について その3」

前回に引き続き、官能検査による評価やおいしさの重要な決定要因となるテクスチャー（食感）などについても学習を深めた。

第4回（10月）

「タイの食文化」

今夏、国際家政学会でタイを訪問した際に記録したスライドに従って次の四点からタイの食文化について講義した。タイの豊かな自然と食生活・米作に適した気候と食文化・タイ料理の特徴・タイの地域別の食の特徴。

第5回（10月）

フルブライト留学制度制定50周年を記念して制作されたビデオテープ「J.W.フルブライト物語」を鑑賞し、フルブライト氏の平和の懸け橋とでもいうべきフルブライト交流計画や、氏の活躍から、国際交流の在り方について考えた。

第6回（11月）

「人生100年のQOL（栄養・食事）の食事学」について、学習を行なった。国民の健康意識や価値観の変化・食品の栄養成分特性を健康にどう生かすか・飽食の時代の食卓に欠けるものなどの三点について学習を深めた。

第7回（12月）

研究所研究発表会において、「白川の茶」について発表を聴講し、地方茶についての学習の一環とした。

蒲生グループ活動報告

担 当：蒲生不二男（文教大学教育学部教授）

補 助：清水美津子

メンバー：6名

学習グループ、ホームマネージメント・スクールは、平成8年度は、昨年に引き続き読書会形式で学習を行なった。月に二回、第二・第四木曜日の午前中90分間、船井幸雄著『「清富」の思

想』という本の内容について、ゼミ形式で各自
発表させ、みなでディスカッションし、それを
蒲生教授がまとめるという形式で進めた。

1996年4月より1997年1月まで 全18回
うち学外研修 第6回目 日光 竜王峽
第14回目 日光 駿場が原
小田代が原